

平成 21 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 電気探査技術の活用による最終処分場の安定化の状況把握手法及び浸出水処理施設の適正管理手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○ 廃棄物最終処分場からの安定化および浸出水の管理は、廃棄物行政の遂行上、特に重要な課題の1つである。本研究課題は、県営の最終処分場を対象として、安定化の測定のための電気探査技術および浸出水処理技術の効果把握を主眼としており、実用性を重視したテーマ設定であるといえる。</p> <p>現場のニーズに直結したテーマ設定であることから、将来性、発展性については重視されていないのはやむを得ないことではあるが、研究課題として取り組む以上、何らかの形で将来につなげることを常に考慮されることを期待したい。</p> <p>○ 廃棄物最終処分場は人間活動の末端に位置し、自然環境と密接に関わる施設である。したがってこれを適正に管理することは自然と調和しながら豊かな暮らしを続けていく上で重要である。しかし、処分場は一旦埋めてしまうと中の様子が分かりにくく、また、時間とともに性状が変化していくため、状況に応じて適正管理を図ることは容易ではない。この研究は非破壊検査手法のひとつである電気探査技術を利用して処分場の安定度を把握する手法を確立しようというもので、これが成功すれば処分場の適正管理に資するところが大きい。</p> <p>時期的に運用中の「かながわ環境整備センター」のデータを活用できるということもあり、研究を実施するタイミングとしては非常に適当である。</p> <p>この研究の成果は、上記センターはもちろんのこと神奈川県内処分場の実務に役立つものと考えられる。さらには全国に対する波及効果も期待できる。</p>	<p>○ 神奈川県では、廃棄物県内処理100%を目指しており、安全性のモデルとなる最終処分場を建設しました。本地域課題研究では、この県営処分場「かながわ環境整備センター」の維持管理等を支援することを目的としています。</p> <p>なお、本研究において「かながわ環境整備センター」で得られた知見をもとに県内の廃棄物最終処分場（焼却灰等を埋め立てているもの）について、電気探査技術を活用して安定化状況の把握ができるよう検討します。</p> <p>また、浸出水処理施設についても本研究で得られた知見をもとに他の処分場の適正な維持管理に向けた提言が可能となるとともに、新しく作る処分場の設計や維持管理を行うときの基礎データを得ることができると考えます。</p> <p>○ 御指摘のとおり、「かながわ環境整備センター」からは、埋立廃棄物の種類、埋立日時、埋立位置などの詳細情報が把握できますので、電気探査データ解析のための基礎的なデータが入手できると考えます。</p> <p>また、前記のとおり、成果の活用も可能かと考えます。</p>

平成 21 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 電気探査技術の活用による最終処分場の安定化の状況把握手法及び浸出水処理施設の適正管理手法に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>○ 廃棄物問題の研究課題として、一定の意義のあるテーマだと思うが、もっと他に、減量やリサイクルにつながるようなテーマ設定はできないか。</p> <p>○ 研究対象とするのに適した処分場があるということであれば、検討することに賛成する。しかし、電気探査の結果だけで処分場廃止の決定が下すことが本当に可能になるのか、疑問符がつく。この一例だけではそこまでは無理なのではなかろうか。今回は基礎的な情報の集積に期待する。</p> <p>○ 廃棄物最終処分場の安定化状況の把握は社会ニーズの高い重要な研究である。 電気探査技術は管理型廃棄物処分場の安定化状況把握に有効であり、センターの独自開発技術として実用化が期待される。 浸出水処理施設の処理水水質の問題は既存施設の維持管理方法改善だけでは解決できず、設備の改造が必要になることも考えられる。</p> <p>○ 廃棄物処理の継続的監視は、不可欠な業務であるが、必ずしも十分とは言えないのが現状である。本研究は、比較的簡便な手法を活用して適正管理を図るものであり、有用な意義を有すると考えられる。</p>	<p>○ 御指摘のとおり、廃棄物の減量やリサイクルは循環型社会形成にとって非常に重要なテーマで、処分場問題と同様に行政のニーズもあります。本研究と同様に行政との連携、他機関との共同研究も考慮しながら今後の研究テーマとして検討します。</p> <p>○ 御指摘のとおり電気探査の結果だけでは処分場廃止の判断は十分ではないと考えています。電気探査技術を活用することにより最終処分場の安定化状況の推移を把握できるため、浸出水、ガスのモニタリングや掘削調査などを必要最低限実施すれば、処分場廃止の判断が適正にできるようになると考えます。</p> <p>○ 千葉県、埼玉県、早稲田大学及び国立環境研究所でも電気探査技術の研究を行っており、これらの研究機関とは、従来から最終処分場に係る共同研究及び情報交換を行っております。本研究において「かながわ環境整備センター」で得られた知見をもとに新しい提案ができればと考えています。 「かながわ環境整備センター」の浸出水処理施設では、6種類の処理方式を組み合わせることで高度な処理を行っています。これらの施設を改造することなく改善することが一番ですが、現状では、軽微な改造も視野に入れた上で検討を行っていきたいと考えています。</p> <p>○ 「かながわ環境整備センター」をモデルとして、処分場の適正な維持管理と安定化について検討したいと考えています。</p>